

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4366861号
(P4366861)

(45) 発行日 平成21年11月18日 (2009.11.18)

(24) 登録日 平成21年9月4日 (2009.9.4)

(51) Int. Cl.

F I

GO 1 N 1/22 (2006.01)

GO 1 N 1/22 N

GO 1 N 1/00 (2006.01)

GO 1 N 1/22 L

GO 1 N 1/36 (2006.01)

GO 1 N 1/00 1 O 1 X

GO 1 N 27/62 (2006.01)

GO 1 N 1/00 1 O 1 R

GO 1 N 30/00 (2006.01)

GO 1 N 1/28 Z

請求項の数 5 (全 16 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2000-367731 (P2000-367731)
 (22) 出願日 平成12年12月1日 (2000.12.1)
 (65) 公開番号 特開2002-168737 (P2002-168737A)
 (43) 公開日 平成14年6月14日 (2002.6.14)
 審査請求日 平成19年3月2日 (2007.3.2)

(73) 特許権者 000001993
 株式会社島津製作所
 京都府京都市中京区西ノ京桑原町1番地
 (74) 代理人 100085464
 弁理士 野口 繁雄
 (72) 発明者 青野 晃
 京都府京都市中京区西ノ京桑原町1番地
 株式会社島津製作所内

審査官 長谷 潮

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 通気処理器具及び通気処理機構並びにパージアンドトラップシステム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

サンプル液を一時的に収容するスパージボトルと、
 一端が前記スパージボトルに接続され、他端がサンプル液を供給するためのサンプル液供給機構に接続されるサンプル液導入流路と、
 前記スパージボトルの上部で、前記スパージボトル内に収容されるサンプル液に接触しない位置に一端が設けられたサンプルガス流路と、
 前記スパージボトル内の底部付近に一端が設けられたパージガス流路と、
 前記スパージボトル外で前記パージガス流路の他端に接続され、前記パージガス流路を液排出口又はパージガスを供給するためのパージガス供給機構に切り換えて接続する第1の流路切換機構と、
 前記スパージボトル外で前記サンプルガス流路の他端に接続され、前記サンプルガス流路をサンプルガス出口又は清浄ガスを供給するための清浄ガス供給機構に切り換えて接続する第2の流路切換機構と、を備えた通気処理器具。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の通気処理器具と、前記パージガス供給機構と、前記清浄ガス供給機構と、を備えた通気処理機構。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の通気処理機構と、
 吸着剤が充填され、サンプルガス中の目的成分を捕集した後、脱離させうる濃縮カラムと

10

20

、
前記スパージボトル外で前記サンプルガス流路の途中に設けられ、前記サンプルガス流路間に前記濃縮カラムを接続し、キャリアガスを供給するためのキャリアガス流路と分析計へつながる分析流路を接続する第１の流路接続状態と、サンプルガス流路間を直接接続し、前記濃縮カラムを介して前記キャリアガス流路と前記分析流路を接続する第２の流路接続状態との間で切り換えられる第３の流路切換え機構と、を備えたパーリアンドトラップシステム。

【請求項４】

請求項２に記載の通気処理機構と、
前記スパージボトル外で前記サンプル流路の途中に設けられ、吸着剤が充填され、サンプルガス中の目的成分を捕集した後、脱離させうる濃縮カラムと、
前記サンプルガス流路の前記スパージボトル、前記濃縮カラム間に設けられ、前記スパージボトルを前記濃縮カラムに接続し、キャリアガスを供給するためのキャリアガス流路と分析計へつながる分析流路を接続する第１の流路接続状態と、前記スパージボトルを前記濃縮カラムに接続せず、前記濃縮カラムを介して前記キャリアガス流路と前記分析流路を接続する第２の流路接続状態との間で切り換えられる第３の流路切換え機構と、を備えたパーリアンドトラップシステム。

【請求項５】

前記スパージボトルからのサンプルガス中の水分を除去してから前記濃縮カラムに送るためのサンプルガス乾燥機構を前記サンプルガス流路にさらに備えた請求項３又は４に記載のパーリアンドトラップシステム。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、サンプル液に通気処理を施すための通気処理器具及びそれを用いた通気処理機構、並びに通気処理機構を備え、通気処理機構からのサンプルガス中の目的成分を捕集及び濃縮するパーリアンドトラップシステムに関するものである。

通気処理器具、通気処理機構及びパーリアンドトラップシステムは、例えば上水道水中に含まれるカビ臭原因物質の測定など、水中のＶＯＣ（揮発性有機物質）の分析に用いられる。

【０００２】

【従来の技術】

水中のＶＯＣを測定するためには、スパージボトルにサンプル液を収容し、ヘリウムガスや窒素ガスなどの不活性ガス（パーガス）によってサンプル液に対してバブリング（通気処理）を行ない、水中に溶存するＶＯＣをパーガス中に回収する方法が用いられている。

【０００３】

図７は従来の通気処理機構を示す流路図である。

通気処理を行なうためにサンプル液を収容するスパージボトル２が設けられている。

スパージボトル２の側面には、サンプル液を供給するためのサンプル液供給機構３からのサンプル液をスパージボトル２内へ導入するためのサンプル液導入流路５が接続されている。

スパージボトル２の底部付近に、パーガスをスパージボトル２内に導くためのパーガス流路７の一端が設けられている。パーガス流路７の他端は、開閉バルブ１１及び流路８を介して、パーガスを供給するためのパーガス供給機構９に接続されている。

【０００４】

スパージボトル２内の上部に、スパージボトル２内からサンプルガスを回収するためのサンプルガス流路１３の一端が設けられている。サンプルガス流路１３の一端は、スパージボトル２内に収容されるサンプル液に接触しない位置に設けられている。サンプルガス流路１３の他端は、三方電磁バルブ１５及び流路１４を介してサンプルガス出口１７に接続

されている。

【 0 0 0 5 】

バルブ 1 5 には、流路 1 8 を介して、清浄ガスを供給するための清浄ガス供給機構 1 9 も接続されており、バルブ 1 5 はサンプルガス流路 1 3 を流路 1 4 又は流路 1 8 に切り換えて接続する。

スパージボトル 2 の底部には、サンプル液を排出するためのサンプル液排出流路 2 1 が接続されている。サンプル液排出流路 2 1 の他端は開閉バルブ 2 3 を介して液排出口 2 5 に接続されている。

【 0 0 0 6 】

従来の通気処理機構において、通気処理を行なう際、バルブ 1 1 及び 2 3 を閉じ、バルブ 1 5 によりスパージボトル 2 からのサンプルガス流路 1 3 を流路 1 4 に接続し、サンプル液供給機構 3 を作動させて、サンプル液導入流路 5 からスパージボトル 2 内にサンプル液を導入する。所定量のサンプル液をスパージボトル 2 内に導入した後、バルブ 1 1 を開いて、パージガス供給機構 9 により流路 8 及びパージガス流路 7 を介してスパージボトル 2 の底部付近にパージガスを供給する。このとき、サンプル液導入流路 5 のサンプル液供給機構 3 側端は、サンプル液供給機構 3 により閉じられた状態になっている。通気処理後のパージガスは、サンプルガス流路 1 3、バルブ 1 5 及び流路 1 4 を介してサンプルガス出口 1 7 へ導かれる。

【 0 0 0 7 】

通気処理が完了した後、バルブ 1 1 を閉じてパージガスの供給を停止し、バルブ 2 3 を開き、バルブ 1 5 を切り換えて、スパージボトル 2 からのサンプルガス流路 1 3 を流路 1 8 に接続する。清浄ガス供給機構 1 9 から流路 1 8、バルブ 1 5 及びサンプルガス流路 1 3 を介して清浄ガスをスパージボトル 2 内に供給してスパージボトル 2 内を加圧し、スパージボトル 2 内に収容されたサンプル液をサンプル液排出流路 2 1 及びバルブ 2 3 を介して液排出口 2 5 から排出する。

【 0 0 0 8 】

図 7 に示す通気処理機構のサンプルガス出口 1 7 から得られるサンプルガス中の測定対象成分である V O C 濃度が低い場合、吸着剤が充填されてサンプルガス中の V O C を捕集した後、脱離せうる濃縮カラムと、流路切換え機構を通気処理機構に接続し、V O C を捕集及び濃縮する。

V O C を捕集及び濃縮するとき、流路切換え機構によりサンプルガス出口 1 7 を濃縮カラムの一端に接続する。所定量のサンプルガスを濃縮カラムへ導入した後、流路切換え機構を切り換えて濃縮カラムの一端を分析計へつながる流路に接続し、濃縮カラムの他端をキャリアガス供給機構へつながる流路に接続する。その後、濃縮カラムの吸着剤に吸着した V O C を脱離させ、キャリアガスとともに分析計へ導入する。

本明細書では、通気処理機構、濃縮カラム及び流路切換え機構により構成される機構をパージアンドトラップシステムという。

【 0 0 0 9 】

【 発明が解決しようとする課題 】

従来の通気処理機構では、スパージボトル 2 にサンプル液を導入及び排出し、サンプル液に通気処理を施すためにはサンプル液導入流路 5、パージガス流路 7、サンプルガス流路 1 3 及びサンプル液排出流路 2 1 の 4 ラインが必要であり、パージガス流路 7、サンプルガス流路 1 3、サンプル液排出流路 2 1 にはバルブ 1 1、2 3、2 5 が必要なので、配管及びバルブが多く、流路構成が複雑であった。さらに、そのような通気処理機構を用いたパージアンドトラップシステムの流路構成も複雑であった。

本発明は、通気処理器具、通気処理機構及びパージアンドトラップシステムの流路構成の簡略化を図ることを目的とするものである。

【 0 0 1 0 】

【 課題を解決するための手段 】

本発明にかかる通気処理機器具は、サンプル液を一時的に収容するスパージボトルと、一

10

20

30

40

50

端がスパージボトルに接続され、他端がサンプル液を供給するためのサンプル液供給機構に接続されるサンプル液導入流路と、スパージボトルの上部で、スパージボトル内に収容されるサンプル液に接触しない位置に一端が設けられたサンプルガス流路と、スパージボトル内の底部付近に一端が設けられたパージガス流路と、スパージボトル外でパージガス流路の他端に接続され、パージガス流路を液排出口又はパージガスを供給するためのパージガス供給機構に切り換えて接続する第1の流路切換え機構と、スパージボトル外でサンプルガス流路の他端に接続され、サンプルガス流路をサンプルガス出口又は清浄ガスを供給するための清浄ガス供給機構に切り換えて接続する第2の流路切換え機構とを備えたものである。

【0011】

本発明にかかる通気処理機構は、上記通気処理器具と、パージガス供給機構と、清浄ガス供給機構とを備えたものである。

【0012】

本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第1の態様は、上記通気処理機構と、吸着剤が充填され、サンプルガス中の目的成分を捕集した後、脱離させうる濃縮カラムと、スパージボトル外でサンプルガス流路の途中に設けられ、サンプルガス流路間に濃縮カラムを接続し、キャリアガスを供給するためのキャリアガス流路と分析計へつながる分析流路を接続する第1の流路接続状態と、サンプルガス流路間を直接接続し、濃縮カラムを介してキャリアガス流路と分析流路を接続する第2の流路接続状態との間で切り換えられる第3の流路切換え機構とを備えたものである。

【0013】

本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第2の態様は、上記通気処理機構と、スパージボトル外でサンプル流路の途中に設けられ、吸着剤が充填され、サンプルガス中の目的成分を捕集した後、脱離させうる濃縮カラムと、サンプルガス流路のスパージボトル、濃縮カラム間に設けられ、スパージボトルを濃縮カラムに接続し、キャリアガスを供給するためのキャリアガス流路と分析計へつながる分析流路を接続する第1の流路接続状態と、スパージボトルを濃縮カラムに接続せず、濃縮カラムを介してキャリアガス流路と分析流路を接続する第2の流路接続状態との間で切り換えられる第3の流路切換え機構とを備えたものである。

【0014】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明にかかる通気処理器具及び通気処理機構の一例の流路構成及び動作を示す流路図であり、(A)はサンプル液導入時、(B)は通気処理時、(C)はサンプル液排出時を示す。

スパージボトル1にサンプル液供給機構3からのサンプル液をスパージボトル1内へ導入するためのサンプル液導入流路5が接続されている。

スパージボトル1の底部付近にパージガス流路7の一端が設けられており、パージガス流路7の他端は第1の流路切換え機構27に接続されている。第1の流路切換え機構27にはパージガス供給機構9につながる流路8及び液排出口25につながる流路24も接続されており、第1の流路切換え機構27はパージガス流路7を流路8又は流路24に切り換えて接続する。

【0015】

スパージボトル1内のサンプル液に接触しない位置にサンプルガス流路13の一端が設けられている。サンプルガス流路13の他端は第2の流路切換え機構15に接続されている。第2の流路切換え機構15にはサンプルガス出口17につながる流路14及び清浄ガス供給機構19につながる流路18も接続されており、第2の流路切換え機構15はサンプルガス流路13を流路14又は流路18に切り換えて接続する。

本発明にかかる通気処理器具は、スパージボトル1、サンプル液導入流路5、パージガス流路7、サンプル流路13、第1の流路切換え機構27及び第2の流路切換え機構15により構成される。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 6 】

図 1 を参照して本発明にかかる通気処理器具及び通気処理機構の動作の一例を説明する。

(A) 第 1 の流路切換え機構 2 7 によりスパージボトル 1 からのパージガス流路 7 を流路 2 4 に接続し、第 2 の流路切換え機構 1 5 によりスパージボトル 1 からのサンプルガス流路 1 3 を流路 1 4 に接続し、サンプル液供給機構 3 を作動させて、サンプル液導入流路 5 からスパージボトル 1 内にサンプル液を導入する。ここで、第 1 の流路切換え機構 2 7 及び第 2 の流路切換え機構 1 5 の流路接続状態は上記に限定されるものではない。ただし、サンプル液をスパージボトル 1 内に導入する際に、スパージボトル 1 内の気体が排出されるように第 1 の流路切換え機構 2 7 及び第 2 の流路切換え機構 1 5 の流路接続状態を制御する必要がある。又は、スパージボトル 1 内の気体排出用のドレインバルブをスパージボトル 1、パージガス流路 7 又はサンプルガス流路 1 3 のいずれかに設けてもよい。

10

【 0 0 1 7 】

(B) 所定量のサンプル液をスパージボトル 1 内に導入した後、第 1 の流路切換え機構 2 7 を切り換えて、スパージボトル 1 からのパージガス流路 7 を流路 8 に接続し、パージガス供給機構 9 により流路 8、第 1 の流路切換え機構 2 7 及びパージガス流路 7 を介してスパージボトル 1 の底部付近にパージガスを供給し、スパージボトル 1 に収容されたサンプル液に通気処理を施す。このとき、サンプル液導入流路 5 のサンプル液供給機構 3 側端はサンプル液供給機構 3 により閉じられた状態になっている。通気処理後のパージガスは、サンプルガス流路 1 3、第 2 の流路切換え機構 1 5 及び流路 1 4 を介してサンプルガス出口 1 7 へ導かれる。

20

【 0 0 1 8 】

(C) 所定量のパージガスをスパージボトル 1 内に供給した後、第 1 の流路切換え機構 2 7 を切り換えてスパージボトル 1 からのパージガス流路 7 を流路 2 4 に接続してパージガスの供給を停止し、通気処理を完了する。第 2 の流路切換え機構 1 5 を切り換えて、スパージボトル 1 からのサンプルガス流路 1 3 を流路 1 8 に接続する。清浄ガス供給機構 1 9 から流路 1 8、第 2 の流路切換え機構 1 5 及びサンプルガス流路 1 3 を介して清浄ガスをスパージボトル 1 内に供給してスパージボトル 1 内を加圧し、スパージボトル 1 内に収容されたサンプル液をパージガス流路 7、第 1 の流路切換え機構 2 7 及び流路 2 4 を介して液排出口 2 5 から排出する。

30

【 0 0 1 9 】

本発明にかかる通気処理機構では、図 7 に示す従来の通気処理機構と比べてスパージボトル 1 にサンプル液排出流路 2 1 及びバルブ 2 3 を設ける必要がなく、流路構成を簡単にすることができる。さらに、流路構成が簡単になることにより、流路内及びスパージボトル内汚染時の洗浄や部品交換が容易になる。

【 0 0 2 0 】

図 2 及び図 3 は本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第 1 の態様の流路構成及び動作を示す流路図である。図 2 (A) はサンプル液導入時、図 2 (B) は通気処理及び目的成分捕集時、図 3 (C) は目的成分脱離時、図 3 (D) は濃縮カラム洗浄動作 (バックフラッシュ動作という) 及びサンプル液排出時を示す。

図 1 に示す通気処理機構が備えられている。吸着剤が充填され、サンプルガス中の目的成分を捕集した後、脱離させうる濃縮カラム 3 1 が設けられている。サンプルガス流路 1 3 に相当するサンプルガス流路 1 3 a、1 3 b 間に第 3 の流路切換え機構 2 9 が設けられている。第 3 の流路切換え機構 2 9 は、サンプルガス流路 1 3 a、1 3 b 間に濃縮カラム 3 1 を接続し、キャリアガスを供給するためのキャリアガス流路 3 3 と分析計へつながる分析流路 3 5 を接続する第 1 の流路接続状態と、サンプルガス流路 1 3 a、1 3 b 間を直接接続し、濃縮カラム 3 1 を介してキャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する第 2 の流路接続状態との間で切り換えられる。

40

【 0 0 2 1 】

図 2 及び図 3 を参照して本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第 1 の態様の動作を説明する。

50

(A) 第3の流路切換え機構29を第2の流路接続状態にして、スパージボトル1につながるサンプルガス流路13a、第2の流路切換え機構15につながるサンプルガス流路13b間を直接接続し、濃縮カラム31を介してキャリアガス流路33と分析流路35を接続する。キャリアガス流路33にはキャリアガスが供給されており、キャリアガスはキャリアガス流路33から第3の流路切換え機構29、濃縮カラム31、第3の流路切換え機構29の他のポート及び分析流路35を介して分析計へ供給されている。第1の流路切換え機構27によりスパージボトル1からのパージガス流路7を流路24に接続し、第2の流路切換え機構15により第3の流路切換え機構29につながるサンプルガス流路13bを流路14に接続する。サンプル液供給機構3を作動させて、サンプル液導入流路5からスパージボトル1内にサンプル液を導入する。

10

【0022】

(B) 所定量のサンプル液をスパージボトル1内に導入した後、第3の流路切換え機構29を切り換えて第1の流路接続状態にして、サンプルガス流路13a、13b間に濃縮カラム31を接続し、キャリアガス流路33と分析流路35を接続する。第1の流路切換え機構27を切り換えて、スパージボトル1からのパージガス流路7を流路8に接続する。パージガス供給機構9により流路8、第1の流路切換え機構27及びパージガス流路7を介してスパージボトル1の底部付近にパージガスを供給し、スパージボトル1に収容されたサンプル液に通気処理を施す。このとき、サンプル液導入流路5のサンプル液供給機構3側端は、サンプル液供給機構3により閉じられた状態になっている。通気処理後のパージガスは、サンプルガス流路13aから第3の流路切換え機構29を介して濃縮カラム31に導かれる。濃縮カラム31はサンプルガス中の目的成分を捕集する。濃縮カラム31を通過したサンプルガスは、第3の流路切換え機構29、サンプルガス流路13b、第2の流路切換え機構15及び流路14を介してサンプルガス出口17へ導かれる。

20

【0023】

(C) 所定量のパージガスをスパージボトル1内に供給した後、第1の流路切換え機構27を切り換えてパージガス流路7を流路24に接続してパージガスの供給を停止し、通気処理を完了する。第3の流路切換え機構29を切り換えて第2の流路接続状態にして、サンプルガス流路13a、13b間を直接接続し、濃縮カラム31を介してキャリアガス流路33と分析流路35を接続する。濃縮カラム31の吸着剤に吸着した目的成分を脱離させ、キャリアガス流路33から濃縮カラム31にキャリアガスを供給し、脱離させた目的成分をキャリアガスとともに分析流路35を経て分析計に導入する。

30

【0024】

(D) 濃縮カラム31に所定量のキャリアガスを供給した後、第3の流路切換え機構29を切り換えて第1の流路接続状態にして、サンプルガス流路13a、13b間に濃縮カラム31を接続し、キャリアガス流路33と分析流路35を接続する。第2の流路切換え機構15を切り換えて、サンプルガス流路13bを流路18に接続する。清浄ガス供給機構19から流路18、第2の流路切換え機構15、サンプルガス流路13b及び第3の流路切換え機構29を介して清浄ガスを濃縮カラム31に供給し、濃縮カラム31の洗浄を行なう(バックフラッシュ動作)。さらに、濃縮カラム31を通過した清浄ガスを第3の流路切換え機構29及びサンプルガス流路13aを介してスパージボトル1内に供給してスパージボトル1内を加圧し、スパージボトル1内に収容されたサンプル液をパージガス流路7、第1の流路切換え機構27及び流路24を介して液排出口25から排出する。

40

【0025】

本発明にかかるパージアンドトラップシステムでは、本発明にかかる通気処理器具及び通気処理機構を用いることにより、流路構成が簡単になる。さらに、パージアンドトラップシステムでは濃縮カラムを清浄ガスにより洗浄するバックフラッシュ動作が必要であるが、本発明にかかるパージアンドトラップシステムでは、バックフラッシュ動作時の清浄ガス圧力を利用してスパージボトル内のサンプル液の排出を行なうので、バックフラッシュ動作とサンプル液排出動作を同時に行なうことができ、これらの動作に要する処理時間を短縮することができる。

50

【 0 0 2 6 】

図 4 及び図 5 は本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第 2 の態様の流路構成及び動作を示す流路図である。図 4 (A) はサンプル液導入時、図 4 (B) は通気処理及び目的成分捕集時、図 5 (C) は目的成分脱離時、図 5 (D) は濃縮カラム洗浄動作及びサンプル液排出時を示す。

図 1 に示す通気処理機構が備えられている。サンプルガス流路 1 3 に相当するサンプルガス流路 1 3 c , 1 3 d , 1 3 e が設けられ、サンプルガス流路 1 3 c , 1 3 d 間に第 3 の流路切換え機構 2 9 が設けられており、サンプルガス流路 1 3 d , 1 3 e 間に濃縮カラム 3 1 が設けられている。流路 1 4 に相当する流路 1 4 a , 1 4 b が設けられており、流路 1 4 a , 1 4 b 間に第 3 の流路切換え機構 2 9 が設けられている。第 3 の流路切換え機構 2 9 は、スパージボトル 1 を濃縮カラム 3 1 に接続し、キャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する第 1 の流路接続状態と、スパージボトル 1 を濃縮カラム 3 1 に接続せず、濃縮カラム 3 1 を介してキャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する第 2 の流路接続状態との間で切り換えられる。

10

【 0 0 2 7 】

図 4 及び図 5 を参照して本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第 2 の態様の動作を説明する。

(A) 第 2 の流路切換え機構 1 5 により、サンプルガス流路 1 3 e を流路 1 4 a に接続する。第 3 の流路切換え機構 2 9 を第 2 の流路接続状態にして、サンプルガス流路 1 3 c と流路 1 4 b を接続し、流路 1 4 a 、第 2 の流路切換え機構 1 5 、サンプルガス流路 1 3 e 、濃縮カラム 3 1 及びサンプルガス流路 1 3 d を介してキャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する。キャリアガス流路 3 3 にはキャリアガスが供給されており、キャリアガスはキャリアガス流路 3 3 から第 3 の流路切換え機構 2 9 、流路 1 4 a 、第 2 の流路切換え機構 1 5 、サンプルガス流路 1 3 e 、濃縮カラム 3 1 及びサンプルガス流路 1 3 d 、第 3 の流路切換え機構 2 9 の他のポート及び分析流路 3 5 を介して分析計へ供給されている。第 1 の流路切換え機構 2 7 によりパージガス流路 7 を流路 2 4 に接続する。サンプル液供給機構 3 を作動させて、サンプル液導入流路 5 からスパージボトル 1 内にサンプル液を導入する。

20

【 0 0 2 8 】

(B) 所定量のサンプル液をスパージボトル 1 内に導入した後、第 3 の流路切換え機構 2 9 を切り換えて第 1 の流路接続状態にして、サンプルガス流路 1 3 c と 1 3 d を接続し、キャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続し、流路 1 4 a と 1 4 b を接続する。第 1 の流路切換え機構 2 7 を切り換えて、パージガス流路 7 を流路 8 に接続する。パージガス供給機構 9 により流路 8 、第 1 の流路切換え機構 2 7 及びパージガス流路 7 を介してスパージボトル 1 の底部付近にパージガスを供給し、スパージボトル 1 に収容されたサンプル液に通気処理を施す。このとき、サンプル液導入流路 5 のサンプル液供給機構 3 側端は、サンプル液供給機構 3 により閉じられた状態になっている。通気処理後のパージガスは、サンプルガス流路 1 3 c から第 3 の流路切換え機構 2 9 及びサンプルガス流路 1 3 d を介して濃縮カラム 3 1 に導かれる。濃縮カラム 3 1 はサンプルガス中の目的成分を捕集する。濃縮カラム 3 1 を通過したサンプルガスは、サンプルガス流路 1 3 e 、第 2 の流路切換え機構 1 5 、流路 1 4 a 、第 3 の流路切換え機構 2 9 及び流路 1 4 b を介してサンプルガス出口 1 7 へ導かれる。

30

40

【 0 0 2 9 】

(C) 所定量のパージガスをスパージボトル 1 内に供給した後、第 1 の流路切換え機構 2 7 を切り換えてパージガス流路 7 を流路 2 4 に接続してパージガスの供給を停止し、通気処理を完了する。第 3 の流路切換え機構 2 9 を切り換えて第 2 の流路接続状態にして、サンプルガス流路 1 3 c と流路 1 4 b を接続し、流路 1 4 a 、第 2 の流路切換え機構 1 5 、サンプルガス流路 1 3 e 、濃縮カラム 3 1 及びサンプルガス流路 1 3 d を介してキャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する。濃縮カラム 3 1 の吸着剤に吸着した目的成分を脱離させ、キャリアガス流路 3 3 から第 3 の流路切換え機構 2 9 、流路 1 4 a 、第 2 の流

50

路切換機構 15 及びサンプルガス流路 13e を経て濃縮カラム 31 にキャリアガスを供給し、脱離させた目的成分をキャリアガスとともに、サンプルガス流路 13d、第 3 の流路切換機構 29 の他のポート及び分析流路 35 を経て分析計に導入する。

【0030】

(D) 濃縮カラム 31 に所定量のキャリアガスを供給した後、第 3 の流路切換機構 29 を切り換えて第 1 の流路接続状態にして、サンプルガス流路 13c と 13d を接続し、キャリアガス流路 33 と分析流路 35 を接続し、流路 14a と 14b を接続する。第 2 の流路切換機構 15 を切り換えて、サンプルガス流路 13e を流路 18 に接続する。清浄ガス供給機構 19 から流路 18、第 2 の流路切換機構 15 及びサンプルガス流路 13e を介して清浄ガスを濃縮カラム 31 に供給し、濃縮カラム 31 の洗浄を行なう。さらに、濃縮カラム 31 を通過した清浄ガスをサンプルガス流路 13d、第 3 の流路切換機構 29 及びサンプルガス流路 13c を介してスパージボトル 1 内に供給してスパージボトル 1 内を加圧し、スパージボトル 1 内に収容されたサンプル液をパージガス流路 7、第 1 の流路切換機構 27 及び流路 24 を介して液排出口 25 から排出する。

このように、図 4 及び図 5 に示す流路構成においても、バックフラッシュ動作とサンプル液排出動作を同時に行なうことができる。

【0031】

本発明にかかるパージアンドトラップシステムは、図 2 から図 5 に示す流路構成に限定されるものではなく、請求項 1 に記載の通気処理機構を含み、バックフラッシュ動作とサンプル液排出動作を同時に行なうことができる流路構成であれば、どのような流路構成であってもよい。

また、図 1 から図 5 に示す流路図では、第 1 の流路切換機構 27 及び第 2 の流路切換機構 15 として三方切換えバルブを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載の要旨の範囲内で、流路構成及び流路切換機構の変更が可能である。

【0032】

また、図 2 から図 5 に示す流路図では、第 3 の流路切換機構 29 として六方切換えバルブを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載の要旨の範囲内で、流路構成及び流路切換機構の変更が可能である。

また、パージボトル 1 の形状、並びにパージボトル 1 へのサンプル液導入流路 3、パージガス流路 7 及びサンプルガス流路 13 の接続位置は図 1 から図 5 の流路図に示すものに限られるものではなく、特許請求の範囲に記載の要旨の範囲内で、流路構成及び流路切換機構の変更が可能である。

【0033】

本発明にかかるパージアンドトラップシステムにおいて、スパージボトルからのサンプルガス中の水分を除去してから濃縮カラムに送るためのサンプルガス乾燥機構をサンプルガス流路にさらに備えていることが好ましい。その結果、スパージボトルからのサンプルガスを乾燥させた状態で濃縮カラムに導入することができる。この態様は、分析計として水分により測定誤差を生じるものを用いる場合に特に有効である。

【0034】

【実施例】

図 6 は、本発明を適用した VOC 測定装置のパージアンドトラップユニットの一例を示す流路図である。

採水ユニット（サンプル液供給機構）3 には、上水道水などの測定対象水中の浮遊物などを除去するためのウオーターバス 39 が設けられている。ウオーターバス 39 内には間仕切り板 39a 及びフィルター 39b が設けられており、ウオーターバス 39 内に導入された測定対象水はフィルター 39b を介して採水流路 41 の入口に導かれる。ウオーターバス 39 には、フィルター 39b を通過した測定対象水を排出するための排出流路 43 と、洗浄用水道水を導入するための洗浄流路 45 が接続されている。

【0035】

ウォーターバス 39 からの採水流路 41 の他端は、8 ポートバルブ 47 の 1 つのポートに接続されている。8 ポートバルブ 47 の共通ポートには、サンプルループ 49 及び 3 方電磁バルブ 51 を介してマイクロシリンジ 53 が接続されている。マイクロシリンジ 53 は 8 ポートバルブ 47 のいずれのポートとも接続されるようになっている。

【0036】

8 ポートバルブ 47 のそれぞれのポートには、採水流路 41 のほか、校正用の標準試料 55, 57, 59 のいずれかにつながる流路、洗浄液 61 につながる流路、不要な液を排出するためのドレインにつながる流路、パージアンドトラップユニット 63 につながるサンプル液導入流路 5 がそれぞれ接続されている。バルブ 51 には洗浄液 61 につながる流路が接続されており、バルブ 51 はマイクロシリンジ 53 をサンプルループ 49 につながる流路又は洗浄液 61 につながる流路に切り換えて接続する。

10

【0037】

パージアンドトラップユニット 63 には、採水ユニット 3 から送られたサンプル液に通気処理を施すためのスパージボトル 1 が設けられている。スパージボトル 1 内には、スパージボトル 1 内にパージガス及び清浄ガスを兼ねるキャリアガスを供給するためのパージガス流路 7 と、スパージボトル 1 内の気体を取り出すためのサンプルガス流路 13a が導かれている。パージガス流路 7 の一端は、スパージボトル 1 内に導入されたサンプル液に浸かるように一端がスパージボトル 1 の底部付近に配置されている。サンプルガス流路 13a の一端はスパージボトル 1 内に導入されたサンプル液を吸い込まないようにスパージボトル 1 の上部付近に配置されている。

20

【0038】

パージアンドトラップユニット 63 内にキャリアガスを供給するためのキャリアガス入口 (CARRIER IN) 65 が設けられている。キャリアガス入口 65 にはパージガス供給機構 (図示は省略) が接続される。キャリアガスとしてはヘリウムガスや窒素ガスなどの不活性ガスが用いられる。キャリアガス入口 65 はキャリアガスの圧力を調節するための調圧器 67、圧力を監視するための圧力計 69、流量を調節するためのニードルバルブ 71、及び第 1 の流路切換え機構としての 3 方電磁バルブ 27 を介してパージガス流路 7 に接続されている。キャリアガス入口 65、調圧器 67、圧力計 69、ニードルバルブ 71、バルブ 27 間の流路は、図 2 及び図 3 に示す流路 8 を構成する。バルブ 27 には流路 24 を介してドレイン出口 (液排出口) 25 も接続されており、バルブ 27 はパージガス流路 7 をニードルバルブ 71 又はドレイン出口 25 に切り換えて接続する。

30

【0039】

サンプルガス流路 13a には、サンプルガス流路 13a からのキャリアガスを乾燥させるための二重管を備えたドライヤ 73 が設けられている。ドライヤ 73 を構成する二重管の内側の管は水分通過性の材料により形成されており、サンプルガス流路 13a からのキャリアガスが二重管の内側の管内を通され、外側の管内には乾燥エアーが通されることにより、キャリアガス内の水分が乾燥エアー側に移動してキャリアガスが乾燥する。ドライヤ 73 からの乾燥エアーはベント 75 から排出される。

【0040】

パージアンドトラップユニット 63 内に乾燥エアーを供給するための乾燥エアー入口 (Purgegas in) 77 が設けられている。乾燥エアー入口 77 には乾燥エアー供給機構 (図示は省略) が接続される。乾燥エアー入口 77 は、乾燥エアーの圧力を調節するための調圧器 79、圧力を監視するための圧力計 81、乾燥エアーの供給を開始及び停止させるための電磁バルブ 83、並びに流量を調節するためのニードルバルブ 85 を介してドライヤ 73 に接続されている。

40

【0041】

ドライヤ 73 からのサンプルガス流路は、3 方電磁バルブ 87 を介して、第 3 の流路切換え機構としての 6 方切換えバルブ 29 に接続されている。バルブ 87 には標準ガス入口 89 につながる流路も接続されており、バルブ 87 は切換えバルブ 29 につながる流路をドライヤ 73 又は標準ガス入口 89 に切り換えて接続する。ドライヤ 73、バルブ 87、切

50

換えバルブ 29 間の流路は、図 2 及び図 3 のサンプルガス流路 13 a を構成する。

【0042】

切換えバルブ 29 には、吸着剤としての活性炭を充填した濃縮カラム 31 の両端につながる流路と、3 方ジョイント 91 を介して G C M S (ガスクロマトグラフ・質量分析計) のカラムへつながる分析流路 35 と、キャリアガスを供給するためのキャリアガス流路 33 と、第 2 の流路切換え機構としての 3 方電磁バルブ 15 につながるサンプルガス流路 13 b が接続されている。3 方ジョイント 91 は切換えバルブ 29 からのガスの一部をスプリッター 93 を経て廃棄するためのものである。

濃縮カラム 31 の付近には、濃縮カラム 31 を加熱及び冷却するためのペルチェ素子 (図示は省略) が配置されている。ペルチェ素子に付着する霜を除去するために、乾燥エア用の圧力計 81 から抵抗器 95 及び電磁バルブ 97 を介して乾燥エア噴出用の流路がペルチェ素子付近に導かれている。

10

【0043】

バルブ 15 からの流路 14 は流量を制御するためのマスフローコントローラ (M F C) 99、3 方電磁バルブ 101、及びサンプルガス出口 17 を介して吸引ポンプ 103 に接続されている。M F C 99、バルブ 101、サンプルガス出口 17 間の流路は、図 2 及び図 3 の流路 14 を構成する。バルブ 15 には抵抗器 105 を介してキャリアガス用の圧力計 69 につながる流路 18 も接続されており、バルブ 15 は、切換えバルブ 29 からの流路 13 b を M F C 99 につながる流路 14 又は抵抗器 105 につながる流路 18 に切り換えて接続する。

20

また、バルブ 101 には配管洩れを検査するためのリークチェックバルブ 107 につながる流路も接続されており、バルブ 87 は、M F C 99 をポンプ 103 又はバルブ 107 に切り換えて接続する。

【0044】

図 2 及び図 3 も参照して、この実施例の動作を説明する。

切換えバルブ 29 を第 2 の流路接続状態にして (図 2 (A) 参照)、バルブ 87 へつながる流路 (サンプルガス流路 13 a) と濃縮カラム 31 の一端につながる流路を接続し、濃縮カラム 31 の他端とバルブ 15 へつながる流路 (サンプルガス流路 13 b) を接続し、キャリアガス流路 33 と分析流路 35 を接続する。キャリアガス流路 33 にはキャリアガスが供給されており、キャリアガスはキャリアガス流路 33 から切換えバルブ 29、濃縮カラム 31、切換えバルブ 29 の他のポート、分析流路 35 及びジョイント 91 を介して G C M S へ供給されている。

30

【0045】

サンプル採取時間になると、マルチポートバルブ 47 によりサンプルループ 49 を採水流路に接続し、バルブ 51 によりサンプルループ 49 とシリンジ 53 を接続した後、シリンジ 53 を吸引動作させて、フィルター 39 b を通過したウオーターバス 39 内の測定対象水を採水流路 41 及びマルチポートバルブ 47 を介してサンプルループ 49 内にサンプル液として採取する。

【0046】

マルチポートバルブ 47 を切り換えて、サンプルループ 49 をサンプル液導入流路 5 に接続した後、シリンジ 53 を吐出動作させて、サンプルループ 49 内のサンプル液をマルチポートバルブ 47 及びサンプル液導入流路 5 を介してスパージボトル 1 に導入する。このとき、バルブ 27 によりサンプルガス流路 7 はドレイン出口 25 に接続されており、スパージボトル 1 内の気体はサンプルガス流路 7、バルブ 27 及び流路 24 を介してドレイン出口 25 から排出される。

40

【0047】

予めバルブ 83 を開き、乾燥エア入口 77、調圧器 79、圧力計 81、バルブ 83 及びニードルバルブ 85 を介してドライヤ 73 に乾燥エアを供給しておき、ドライヤ 73 の二重管内を乾燥させておく。

切換えバルブ 29 を切り換えて第 1 の流路接続状態にし (図 2 (B) 参照)、バルブ 87

50

につながる流路（サンプルガス流路 1 3 a）、サンプルガス流路 1 3 b 間に濃縮カラム 3 1 を接続し、キャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する。バルブ 2 7 を切り換えてパージガス流路 7 をニードルバルブ 7 1 につながる流路（流路 8）に接続し、バルブ 8 7 により切換えバルブ 2 9 をドライヤ 7 3 に接続し、バルブ 1 5 によりサンプルガス流路 1 3 b を流路 1 4 に接続し、バルブ 1 0 1 により M F C 9 9 をサンプルガス出口 1 7 に接続する。

【 0 0 4 8 】

ポンプ 1 0 3 を作動させ、キャリアガス入口 6 5 から供給されるキャリアガス圧力及びポンプ 1 0 3 の吸引力により、キャリアガス入口 6 5 から供給されるキャリアガスを、調圧器 6 7、圧力計 6 9、ニードルバルブ 7 1、バルブ 2 7 及びパージガス流路 7 を介してスパージボトル 1 内に供給する。スパージボトル 1 内では、スパージボトル 1 内の底部付近に配置されたパージガス流路 7 の一端からキャリアガスが噴出され、サンプル液に通気処理が施される。

10

【 0 0 4 9 】

通気処理後のキャリアガスは、サンプルガス流路 1 3 a を介してドライヤ 7 3 へ導かれて乾燥された後、バルブ 8 7 及び切換えバルブ 2 9 を介して濃縮カラム 3 1 へ導かれる。濃縮カラム 3 1 では、通気処理後のキャリアガス中の V O C が活性炭に吸着される。濃縮カラム 3 1 を通過したキャリアガスは、切換えバルブ 2 9、サンプルガス流路 1 3 b、バルブ 1 5、流路 1 4 に設けられた M F C 9 9 及びバルブ 1 0 1、サンプルガス出口 1 7、並びにポンプ 1 0 3 を介して排出される。

20

【 0 0 5 0 】

所定量のキャリアガスをスパージボトル 1 に導入した後、バルブ 2 7 を切り換えてパージガス流路 7 を流路 2 4 に接続し、スパージボトル 1 へのパージガスの供給を停止する。切換えバルブ 2 9 を切り換えて第 2 の流路接続状態にして（図 3（C）参照）、バルブ 8 7 につながる流路（サンプルガス流路 1 3 a）、サンプルガス流路 1 3 b 間を接続し、濃縮カラム 3 1 を介してキャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する。ペルチェ素子により濃縮カラム 3 1 を加熱し、濃縮カラム 3 1 に充填された活性炭に吸着した V O C を熱脱離させ、脱離した V O C をキャリアガス流路 3 3 から供給されるキャリアガスとともに、切換えバルブ 2 9、分析流路 3 5 及びジョイント 9 1 を介して G C M S へ導入する。

30

【 0 0 5 1 】

所定量のキャリアガスを濃縮カラム 3 1 に導入した後、切換えバルブ 2 9 を切り換えて第 1 の流路接続状態にして（図 3（D）参照）、バルブ 8 7 につながる流路（サンプルガス流路 1 3 a）、サンプルガス流路 1 3 b 間に濃縮カラム 3 1 を接続し、キャリアガス流路 3 3 と分析流路 3 5 を接続する。バルブ 1 5 を切り換えて、サンプルガス流路 1 3 b を流路 1 8 に接続する。清浄ガスとしてのキャリアガスをキャリアガス供給口 6 5、調圧器 6 7、圧力計 6 9、流路 1 8 に設けられた抵抗器 1 0 5、バルブ 1 5、サンプルガス流路 1 3 b 及び切換えバルブ 2 9 を介して濃縮カラム 3 1 に供給し、濃縮カラム 3 1 の洗浄を行なう。

【 0 0 5 2 】

濃縮カラム 3 1 を通過したキャリアガスを切換えバルブ 2 9、サンプルガス流路 1 3 a に設けられたバルブ 8 7 及びドライヤ 7 3 を介してスパージボトル 1 内に供給してキャリアガスによりスパージボトル 1 内を加圧し、スパージボトル 1 内に収容されたサンプル液をパージガス流路 7 及びバルブ 2 7 を介してドレイン出口 2 5 から排出する。所定量のキャリアガスを濃縮カラム 3 1、ドライヤ 7 3 及びスパージボトル 1 内に導入した後、バルブ 1 5 を切り換えてバックフラッシュ動作を終了する。

40

【 0 0 5 3 】

また、測定終了後には、バルブ 8 3 を開いて、ペルチェ素子に向けて乾燥エアーを噴射し、ペルチェ素子に付着した霜を吹き飛ばす。

G C M S の校正は、マルチポートバルブ 4 7 の切換え及びシリンジの吸引吐出動作により、サンプルループ 4 9 に標準サンプル 5 5、5 7、5 9 のいずれかを吸引し、スパージボ

50

トル 1 に標準サンプルを導入した後、上記と同様にして標準サンプル中の目的成分を測定することにより行なうことができる。

【 0 0 5 4 】

サンプルループ 4 9 内の洗浄は、バルブ 5 1 によりシリンジ 5 3 を洗浄液 6 1 につながる流路に接続し、シリンジ 5 3 を吸引動作させて洗浄水 3 7 をシリンジ 5 3 内に吸引し、バルブ 5 1 を切り換えてシリンジ 5 3 をサンプルループ 4 9 に接続し、マルチポートバルブ 4 7 によりサンプルループ 4 9 をドレインに接続した後、シリンジ 5 3 を吐出動作させて行なう。

【 0 0 5 5 】

上記実施例ではパージガス及び清浄ガスとして共通のキャリアガス供給機構により供給されるキャリアガスを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パージガスを供給するガス供給機構と清浄ガスを供給するガス供給機構をそれぞれ設けてもよい。本発明を構成するサンプル液供給機構は、上記採水ユニット 3 に限定されるものではなく、所定量のサンプル液をスパージボトルに注入できる機構であればどのような機構であってもよい。

【 0 0 5 6 】

【発明の効果】

本発明にかかる通気処理器具では、スパージボトルと、サンプル液導入流路と、サンプルガス流路と、パージガス流路と、スパージボトルからのパージガス流路をパージガス供給機構又は液排出口に切り換えて接続する第 1 の流路切換え機構と、スパージボトルからのサンプルガス流路をサンプルガス出口又は清浄ガス供給機構に切り換えて接続する第 2 の流路切換え機構とを備え、本発明にかかる通気処理機構では、上記通気処理器具と、パージガス供給機構と、清浄ガス供給機構とを備え、スパージボトル内に収容されたサンプル液を排出する際に、清浄ガス供給機構から供給される清浄ガスを第 2 の切換え機構及びサンプルガス流路を介してスパージボトル内に供給してスパージボトル内を加圧し、パージガス流路及び第 1 の流路切換え機構を介して液排出口からサンプル液を排出するようにしたので、スパージボトルにサンプル液排出用流路を設ける必要がなくなり、さらにサンプル液排出用流路に開閉バルブを設ける必要がなくなり、流路構成を簡単にすることができる。

【 0 0 5 7 】

本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第 1 の態様では、上記通気処理機構と、濃縮カラムと、スパージボトル外でサンプルガス流路の途中に設けられ、サンプルガス流路間に分離濃縮カラムを接続し、キャリアガス流路と分析流路を接続する第 1 の流路接続状態と、サンプルガス流路間を直接接続し、濃縮カラムを介してキャリアガス流路と分析流路を接続する第 2 の流路接続状態との間で切り換えられる第 3 の流路切換え機構とを備え、濃縮カラムのバックフラッシュ動作時に、清浄ガス供給機構からの清浄ガスを濃縮カラムに供給し、濃縮カラムを通過した清浄ガスをサンプルガス流路を介してスパージボトル内に導入するようにしたので、バックフラッシュ動作とサンプル液排出動作を同時に行なうことができ、これらの動作に要する処理時間を短縮することができる。さらに上記通気処理機構を採用することにより流路構成が簡単になる。

【 0 0 5 8 】

本発明にかかるパージアンドトラップシステムの第 2 の態様では、上記通気処理機構と、濃縮カラムと、サンプルガス流路のスパージボトル、濃縮カラム間に設けられ、スパージボトルを濃縮カラムに接続し、キャリアガス流路と分析流路を接続する第 1 の流路接続状態と、スパージボトルを濃縮カラムに接続せず、濃縮カラムを介してキャリアガス流路と分析流路を接続する第 2 の流路接続状態との間で切り換えられる第 3 の流路切換え機構とを備え、濃縮カラムのバックフラッシュ動作時に、清浄ガス供給機構からの清浄ガスを濃縮カラムに供給し、濃縮カラムを通過した清浄ガスをサンプルガス流路を介してスパージボトル内に導入するようにしたので、バックフラッシュ動作とサンプル液排出動作を同時に行なうことができ、これらの動作に要する処理時間を短縮することができる。さらに上

10

20

30

40

50

記通気処理機構を採用することにより流路構成が簡単になる。

【 0 0 5 9 】

本発明にかかるパー吉安ドトラップシステムにおいて、スパージボトルからのサンプルガス中の水分を除去してから濃縮カラムに送るためのサンプルガス乾燥機構をサンプルガス流路にさらに備えるようにすれば、スパージボトルからのサンプルガスを乾燥させた状態で濃縮カラムに導入することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明にかかる通気処理機構の一例の流路構成及び動作を示す流路図であり、(A) はサンプル液導入時、(B) は通気処理時、(C) はサンプル液排出時を示す。

【図 2】本発明にかかるパー吉安ドトラップシステムの第 1 の態様の流路構成及び動作を示す流路図であり、(A) はサンプル液導入時、(B) は通気処理及び目的成分捕集時を示す。

10

【図 3】本発明にかかるパー吉安ドトラップシステムの第 1 の態様の流路構成及び動作を示す流路図であり、(C) は目的成分脱離時、(D) は濃縮カラム洗浄動作及びサンプル液排出時を示す。

【図 4】本発明にかかるパー吉安ドトラップシステムの第 2 の態様の流路構成及び動作を示す流路図であり、(A) はサンプル液導入時、(B) は通気処理及び目的成分捕集時を示す。

【図 5】本発明にかかるパー吉安ドトラップシステムの第 2 の態様の流路構成及び動作を示す流路図であり、(C) は目的成分脱離時、(D) は濃縮カラム洗浄動作及びサンプル液排出時を示す。

20

【図 6】本発明を適用した V O C 測定装置のパー吉安ドトラップユニットの一例を示す流路図である。

【図 7】従来の通気処理機構を示す流路図である。

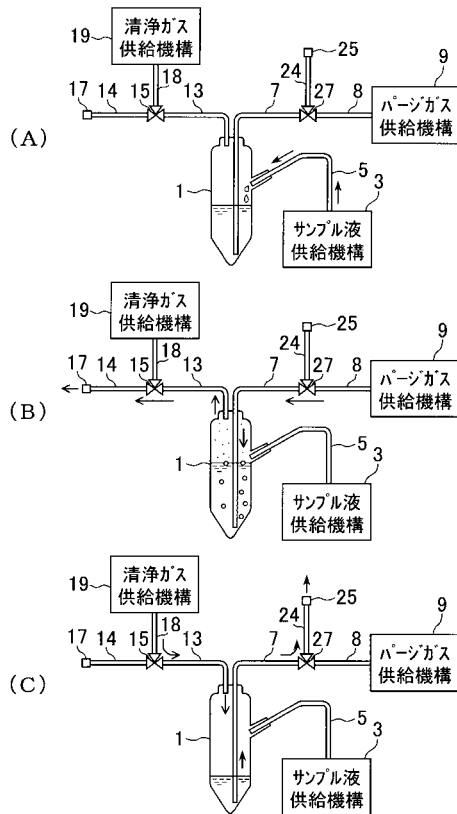
【符号の説明】

- 1 スパージボトル
- 3 サンプル液供給機構
- 5 サンプル液導入流路
- 7 パージガス流路
- 8 , 1 4 , 1 4 a , 1 4 b , 1 8 , 2 4 流路
- 9 パージガス供給機構
- 1 3 , 1 3 a , 1 3 b , 1 3 c , 1 3 d , 1 3 e サンプルガス流路
- 1 5 第 1 の流路切換え機構
- 1 7 サンプルガス出口
- 1 9 清浄ガス供給機構
- 2 5 液排出口
- 2 7 第 1 の流路切換え機構
- 2 9 第 3 の流路切換え機構
- 3 1 濃縮カラム
- 3 3 キャリアガス流路
- 3 5 分析流路

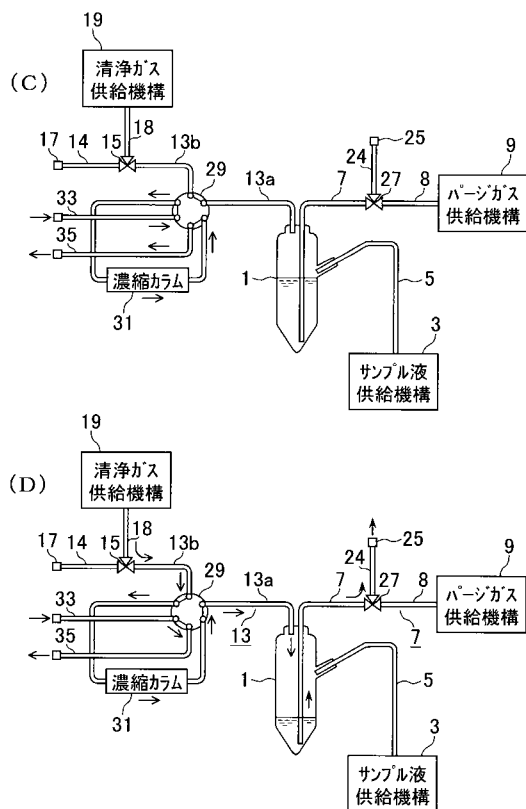
30

40

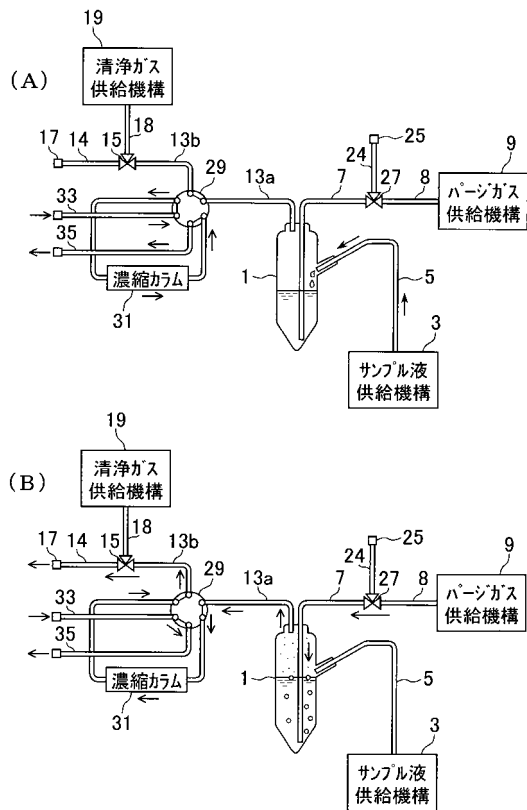
【圖 1】



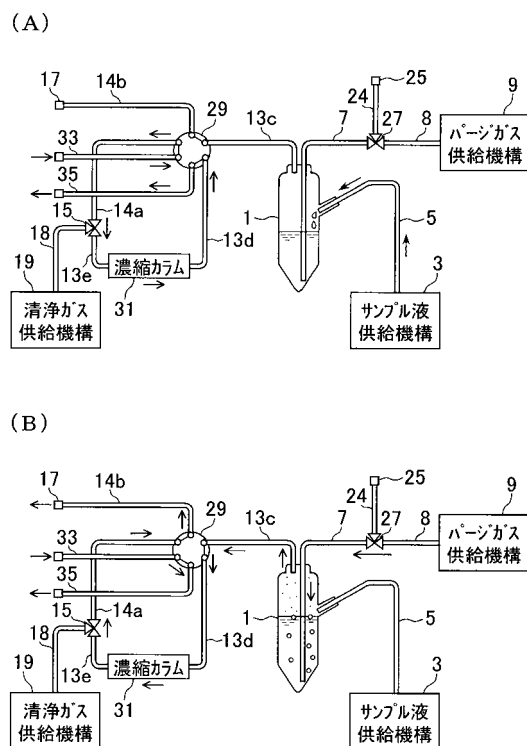
【 図 3 】



【圖 2】

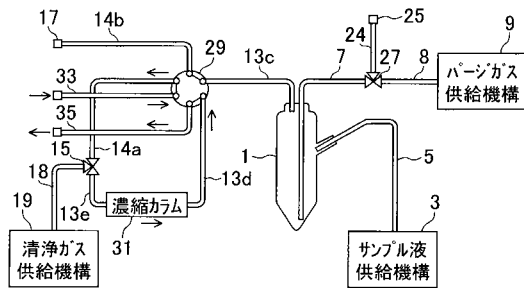


【図 4】

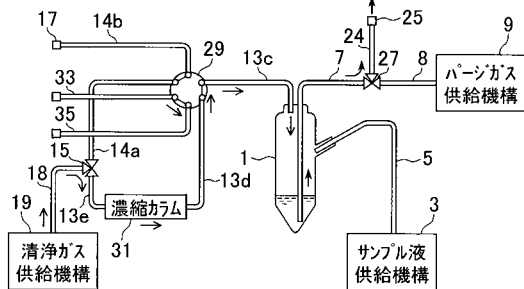


【図 5】

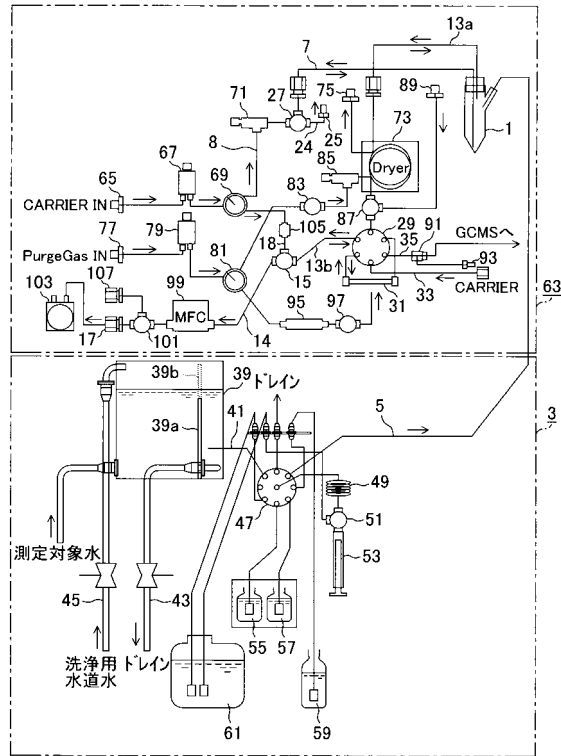
(C)



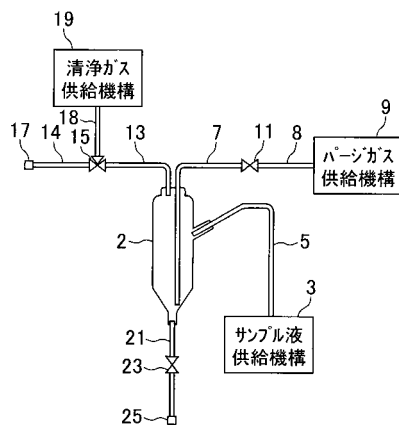
(D)



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I
G 0 1 N 27/62 C
G 0 1 N 30/00 B

(56)参考文献 特開平 1 0 - 1 0 1 0 2 (J P , A)
特開平 6 - 2 4 2 0 9 7 (J P , A)
特開昭 6 4 - 5 0 3 5 7 (J P , A)
特開平 2 - 1 1 2 7 4 4 (J P , A)
実開平 3 - 9 3 7 5 9 (J P , U)
実開昭 5 5 - 9 2 2 4 (J P , U)
特表平 6 - 5 0 3 1 6 9 (J P , A)
特開平 5 - 4 0 0 8 (J P , A)
実開昭 5 8 - 1 2 9 1 3 7 (J P , U)
特開昭 5 8 - 1 1 8 3 0 (J P , A)
特開昭 5 0 - 2 8 3 9 0 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

G01N 1/00- 1/44

G01N 27/62

G01N 30/00